

京都大学構内遺跡調査研究年報

2008年度

京都大学文化財総合研究センター

序

本年報は、2008年度に文化財総合研究センターがおこなった、大学敷地内の遺跡調査の報告と、それらの資料にもとづいた研究成果をまとめた紀要からなっている。第Ⅰ部で報告する発掘および立合調査では、先史時代から近世にいたる歴史を刻んだ資料を整理し、北白川を中心とする地域史に新たな情報を加えている。

京都大学の構内では、吉田キャンパスや各地の研究施設の施設内に、すでに登録された多くの周知の遺跡があるが、新たな整備が計画される機会には、該当する地域の遺跡の範囲や内容を再検討する作業を進めている。第Ⅱ章で報告する医学部附属病院西構内の調査地点は、京都市遺跡地図の中で、聖護院川原町遺跡として登録されている部分の西端にあたるが、工事予定地がこの遺跡範囲のさらに西側を含んでいた。遺跡の発掘を始めたところ、調査区全体にわたって遺物包含層が良好に残されていたので、新たな遺跡範囲を確認し工事予定地全体を発掘した結果、この地域の開発が開始された時期や、中世以降の土地利用の変遷に関する新たな情報を加えることができた。

また、発掘と出土資料の調査を進める中で、多くの分野から検討を進めながら、歴史的環境を復元するための具体的な蓄積をはかっており、その一端は本年報にも反映されている。第Ⅱ部の紀要は、北部構内の調査で明らかになった平安時代の遺構や遺物を、古代史の視点から史料との関係を検討して、古代寺院の具体的な所在地について考察したものである。ご高覧いただきご批判下さるようお願いしたい。

おわりに、これらの調査を進める上でご指導ご助言をいただいた、学内学外の関係者および調査機関、とりわけ、発掘にあたって多くのご協力を賜った、施設部、医学部附属病院の関係各位には、ここに厚くお礼申し上げる次第である。

2011年3月

京都大学文化財総合研究センター長

上原真人

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で2008年4月1日から2009年3月31日までに発掘、整理作業をおこなった埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学文化財総合研究センターにおける研究成果をまとめたものである。
- 2 国土座標にしたがって一辺50mの方形の地区割りをして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、国土座標第Ⅵ座標系（日本測地系、 $x = -108,000$
 $y = -20,000$ ）が（ $X = 2,000$ $Y = 2,000$ ）となる京都大学構内座標により表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良文化財研究所の方式にしたがって、井戸：S E，土坑：S Kのよう
に表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。
この遺物番号は、本文、実測図、写真を通じて表示を統一した。
I：京都大学病院構内A G13区の発掘調査
（例 I 1：京都大学病院構内A G13区出土遺物1番）
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4、遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のも
のは、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 参考文献は、本文中に〔著者名 発表年〕の形式で表わし、巻末に一括した。
- 8 古代・中世土師器の型式分類は、とくにことわりがない場合、『京都大学埋蔵文化財調
査報告Ⅱ』（1981年）にしたがっている。
- 9 本文の執筆者名は各章の初めに列記した。また、遺物の撮影は、それぞれ報告者が担
当した。
- 10 編集は、富井眞が担当し、清水芳裕、千葉豊、伊藤淳史、笹川尚紀、磯谷敦子、柴垣
理恵子が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 2008年度

目 次

第 I 部 2008年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第 1 章 2008年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の経過	1
2 調査の成果	1
第 2 章 京都大学病院構内 A G13区の発掘調査	3
1 調査の概要	3
2 層 位	4
3 遺 構	7
4 遺 物	13
5 小 結	33
参 考 文 献	36
京都大学構内遺跡調査要項	38
報 告 書 抄 録	46

第Ⅱ部 京都大学文化財総合研究センター紀要XXI

円覚寺・東名寺・東明寺にまつわる基礎的考察	49
1 はじめに	49
2 円覚寺の所在	49
3 2つの栗田寺	56
4 栗田山庄の沿革	60
5 おわりに	65

図 版	巻末
-----	----

図 版 目 次

- 図版 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 図版 2 京都大学病院構内 A G 13 区
- | | |
|------------------|------------------|
| 1 完掘後の調査区全景（西から） | 2 調査区東辺全景（南から） |
| 3 東西畔の層位（南西から） | 4 井戸 S E 19（南から） |
- 図版 3 京都大学病院構内 A G 13 区
- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 南辺の井戸・野壺群（南から） | 2 井戸 S E 3（北から） |
| 3 井戸 S E 6（西から） | 4 井戸 S E 15（北東から） |
| 5 土坑 S P 1（南から） | 6 瓦溜まり S X 1（西から） |
- 図版 4 京都大学病院構内 A G 13 区
S E 19 出土遺物, 土製品
- 図版 5 京都大学病院構内 A G 13 区
土製品, 銭貨

挿 図 目 次

病院構内 A G 13 区の発掘調査	
図 1	南北畔西面の層位…………… 4
図 2	東西畔南面の層位…………… 5
図 3	近世 I 期の遺構…………… 8
図 4	近世 II 期(古)の遺構…………… 9
図 5	近世 II 期(新)の遺構…………… 10
図 6	井戸 S E 3 …………… 12
図 7	S E 21 出土遺物(1)…………… 15
図 8	S E 21 出土遺物(2), S E 19 出土 遺物…………… 16
図 9	S E 20 出土遺物, S E 18 出土遺物, S X 4 出土遺物, S E 16 出土遺物, S E 15 出土遺物…………… 18
図 10	S E 14 出土遺物, S E 13 出土遺物, S E 5 出土遺物, S E 1 出土遺物, S E 4 出土遺物, S E 3 出土遺物 …………… 19
図 11	S E 6 出土遺物…………… 20
図 12	S E 2 出土遺物, S X 3 出土遺物, S P 1 出土遺物, S D 14 出土遺物 …………… 22
図 13	S D 9 出土遺物, S D 8 出土遺物, S D 3 出土遺物, S D 2 出土遺物, S D 1 出土遺物, S D 13 出土遺物, S E 10 出土遺物…………… 24
図 14	土製品(1)…………… 25
図 15	土製品(2)…………… 26
図 16	土製品(3)…………… 28
図 17	土製品(4)…………… 29
図 18	土製品(5)…………… 30
図 19	土製品(6)…………… 31
図 20	土製品(7)…………… 32
図 21	錢貨…………… 34
円覚寺・東名寺・東明寺 にまつわる基礎的考察	
図 22	221 地点周辺 …………… 50

表 目 次

表 1	京都大学構内のおもな調査…………… 39
-----	----------------------

第 I 部 2008年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 2008年度京都大学構内遺跡調査の概要

第2章 京都大学病院構内AG13区の発掘調査

第Ⅱ部 京都大学文化財総合研究センター紀要XXI

円覚寺・東名寺・東明寺にまつわる基礎的考察

笹川尚紀

2011年3月31日 発行

京都大学構内遺跡調査研究年報
2008年度

編	集	京都大学文化財総合研究センター
発	行	京都市左京区吉田本町
印	刷	三星商事印刷株式会社
製	本	京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300